

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572609220		
法人名	有限会社 生保内福祉会		
事業所名	グループホーム 優優		
所在地	仙北市田沢湖生保内字街道ノ上36-8		
自己評価作成日	平成23年9月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市東通三丁目9-31		
訪問調査日	平成23年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム優優は市の中心部に位置して郵便局、銀行、床屋、美容院、スーパー等すぐ近くにある環境を活かし、散歩や買い物等、ひとりひとり個人に合わせ外出を行っております。ホームの隣には畑があり、職員と利用者が一緒に作業をし、収穫した野菜を献立に取り入れ季節の旬のものを味わっております。また、秋野菜は隣近所に配って食べて頂いております。春はわらび採りやみず採り、秋にはみずの実採り等、山菜採りに出かけています。キャラバンメイトがホームに二人いるので地域に出向いてメイトの仕事として認知症を理解して頂くため努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは街の中心部に位置し、スーパーへの買い物や散歩等で地域の方々とは触れ合う機会が多く、また、利用者が畑で収穫した野菜を近隣にお裾分けする等、地域の人々とのつながりを大切にされています。利用者が出かけるのを散歩と捉えてさりげなく見守り、その人らしく自由に生活できるよう支援されており、職員は地域密着型サービスの意義を理解し、理念に掲げたことを実践されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が見えるところに理念を貼りだしており代表者、管理者、職員は理念を共有し実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念が作成されており、日々のケアの中で実現できることを意識したサービス提供が行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域への清掃やお祭りへの参加、商店への買い物や床屋、美容院を利用し日常的に交流している。	街の中心部にある利便性を活かした交流が盛んに行われています。中学校とは文化祭への参加や体験学習等で相互交流されており、また、町内会に加入して、利用者も一緒に清掃活動をされています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通したりキャラバンメイトや認知症何でも相談所を設置して認知症の理解や支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事務所での日頃の活動や受診状況、介護度状況、研修報告、実地指導等の報告等、情報交換を行い、委員の皆様から意見を頂きサービス向上に活かしている。	会議には家族、近隣住民もメンバーとなって参加しており、会議の中で認知症に対する周知を図る取り組みもされています。職員にも会議報告がされて情報を共有し、サービスの質の向上に繋がるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議日医包括支援センター職員が毎回出席しているので昼食後情報交換している。市町村担当者と日頃から事業所の実情を伝え協力関係を築くようしている他、福祉事務所とも生活保護について連携を図っている。	市各担当者とは利用者の相談等で連携を図り、協力しながら利用者支援に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、職員会議で話し合い、マニュアルをよく把握して理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は研修を通じて身体拘束の弊害を理解し、職員全員の共通認識として日々にケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法の研修に行き学んだり、マニュアルをよく把握し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は施設の勉強会で、日常生活自立支援事業や成年後見制度を学び、それらを活用出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際は、ご家族や利用者様の話をよく聞き十分な説明を行い、納得、了承を得た上で契約や解除を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付窓口として管理者、行政機関やその他苦情受付窓口として介護保険事務所、国保連、市町村もある事を説明し、ホーム内にも掲示している。また、ケアプランの作成や評価時、または面会の時、意見を聞き運営に反映している。	運営推進会議後や面会時には意見や苦情を言い出しやすいように配慮し、出された意見を真摯に受け止めて運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に朝、夕の申し送りや毎月の職員会議で、意見や提案を聞く機会を設け反映させるようにしている。	毎月の職員会議には運営者が必ず出席し、また、申し送りの中で職員の意見や提案が出されて改善に向けた取り組みが行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事と家庭の両立に配慮した職場環境を作る事により、全ての職員がその能力を発揮できるように取り組んでいる。また資格取得による特別昇給や学習評価手当の制度も整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得や研修の参加に積極的に機会があるごとに参加し、研修報告は必ず行い職員会議での他の職員へも伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大曲仙北地域密着型連絡会や秋田県GH連絡会に加盟しており、研修会や相互勉強会の参加を通して情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で、本人の希望などに耳を傾けながら、本人の安心を確保する関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設見学等をしたり、サービスを導入する段階で家族の要望などに耳を傾けながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共に生活するという目標意識を持って関係を築いている。また、日常業務にとらわれ過ぎず、利用者のペースを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会時や電話、毎月のお手紙にて状況報告を行っている。本人が家族に会いたいと思った時に連絡して面会に来てもらったり、本人が電話したい時は、いつでも電話をかけたりにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が面会に来て頂ける場合は良いが出掛けて行くことはなかなか難しいが昔から通っていた自宅近くの床屋で散髪するなど、馴染みの関係が途切れない様援助している。	利用者の希望を大切に、地域や馴染みの人との関わり、習慣が継続できるよう努力されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの方が日中リビングで過ごされているので、皆が話しやすい様に食事席を決めたりしている。また利用者同士のトラブルには迅速に対応し、関係が悪くならない様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族や利用者の希望に合わせて、他のサービスの紹介等情報提供を行い、サービスが終了後も支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式でアセスメントをし、それを活用しながら本人の希望など取り入れ本人本位にしている。	これまでの生活歴や習慣を把握して、日常生活を通じて意向の把握に努め、利用者の生活のリズムで暮らしていけるよう支援されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントや日々の会話、行動から暮らし方、生活環境などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、夜間の状態等一人ひとりの過し方を把握し心身状態を観察、記録し、出来る事はなるべく本人にやってもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンス、サービス担当者会議をおこない、本人や家族の要望を聞き、介護計画を作成している。	カンファレンスで見直しが行われ、本人及び家族と直接話し合ったうえで、介護支援専門員を中心にして、現状に即した介護計画が共同で作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録や業務日誌に記録し、また職員間で連絡ノートを使用し、確実な申し送りを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへ買い物に行ったり、地元の中学校の行事や町内会の行事に参加し、地域の交流を図っている。協力病院や消防署とも連携を図り、安心して生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	市立田沢湖病院、市立角館病院、高橋医院、くぼた歯科、成田漢方堂薬局薬と連携し、適切な医療が受けられるよう援助している。	これまで利用してきたかかりつけ医で受診されており、家族が対応できない場合は管理者が通院介助されています。在宅時に利用していた薬局も継続して利用されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	伝言ノートに利用者の情報や気づいた事を書き週2回看護師が来た時、指示を仰いだり相談をしている。また、市立田沢湖病院の看護師にも相談でき、アドバイスを受けながら支援できる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や看護師、ケースワーカー等と情報交換を行い、入院中でもご家族と連絡を取り、安心して過ごせるよう援助している。また、入院中は、面会に行ったり洗濯物等届けたりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向をうかがい、医師の意見や診断をもとにホームとして「出来る事、出来ない事」をはっきり見極め、今後のケアの方針についてご家族とホームが納得できるよう話し合い、ケアにあたっている。	本人及び家族の希望を聞き、利用者の状況に応じて他施設や医療機関での対応を支援していくことも含めて、事業所でできることを十分に説明されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、心肺蘇生の講習は受けているが、すべての職員の実践力はまだ身につけていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行って避難する方法を職員が身につけている。地震の時に地域の方がラジオを持って来てくれたりしているの、地域との協力体制を築いている。	夜間を想定した訓練が実施されています。運営推進会議のメンバーである元消防署員が訓練に参加し、近隣とも緊急時の協力体制が構築されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーには十分気を付け一人ひとりの人格を尊重しながら対応に努めている。	居室に入る際の配慮や同性による入浴介助等利用者の人格を尊重した対応をされています。個人ファイルは書庫に入れて管理されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの際には声かけを行い、出来るだけ本人の思いや希望を聞いて混乱しない様、納得する形で援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、ご本人の希望に合わせて、その時の気分や状態に合わせて過ごせるように援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	個人が行きたい床屋や美容室に行けるようにしたり、馴染や愛着のある服など持参して頂いている。日常的に鏡を見る事が出来、本人も身だしなみを意識できるよう援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや季節のもの等をメニューに取り入れ、利用者と職員と一緒に調理や下ごしらえ、後片付け等をしている。	全員で体操が行われた後、和やかな雰囲気の中で職員と一緒に食事を楽んでいます。ホームの畑で収穫した野菜を献立に取り入れ、食材の買出しに同行する等、一人ひとりの力を活かした支援が行われています。また、月に一度外食の日を設けて全員で出かけており、利用者の楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについてはショートステイの栄養士にアドバイスをもらい活かしている。食事チェック表で一人一人の摂取量を把握している。本人の状態に合わせて食事時間以外にも水分補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に入居者、全員口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用をしておらず、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かしてトイレでの排泄を促している。	職員の適切な誘導や声かけが行われて、失敗する利用者にも工夫し、ほとんどの利用者が布パンツで過ごしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを行い、排便状況を把握している。毎朝のラジオ体操やストレッチで運動への働きかけをしたり、多めの水分摂取や下剤の服用をしたり、かかりつけ医にも必要に応じて相談して援助している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決めているが希望に応じてシャワー浴などを取り入れて個々にそった支援をしている	月、水、金曜日を入浴日としていますが、希望や体調によって火、木曜日に変更する等柔軟に対応して入浴が楽しめるように支援されています。入浴拒否される利用者には時間をおいて誘導する等工夫されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し夜、眠れない時は、個別に話を聞いたりして、少しでも不安を無くし眠れるようにしているし、日中もご本人の希望で休息をとれるように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容や効果、副作用、容量などをよく把握し、いつでも確認できるようにしている。必要時はかかりつけ医や薬剤師に確認できる環境である。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブや外出援助、畑など毎日、その人に合わせた役割を行っている。その人の趣味も活かして出来る事を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	その日の希望に毎回は添えない時はあるが遠くへの買い物、ドライブ、山菜取り、花見や紅葉見物などなるべく外出の機会を作りだしている。また、天気の良い日は近くの公園に出かけている。ご家族との外出も援助している。	お弁当を持って出かけたり、季節に合わせた外出ができるよう計画を立てて実施されています。遠方に住んでいる家族が訪ねてくれた折や通院時を利用して外食をすることもあり、家族の協力も得られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金についての要望や不安等があった際には、職員が説明したり、ご本人が安心、納得できるように努めている。また、一人ひとりの希望や力に応じて、所持している人は、買い物をしている時に使える様に支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける事が出来る人は、本人自ら電話をかけている。また、本人がかけられない時は、職員がかけ家族と話している。また、年賀状や手紙を書きたい人は支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の清掃、消毒など衛生環境に努めていて食堂には、利用者の方が取ってきた季節の花を飾っている。また、不快な臭いが無い様、防臭に気を付けている。	廊下は天井が高く、明かり取りの天窓から陽が差し込み、ホームは広々としています。ホールには畳スペースを設け、廊下のベンチシートやソファで利用者が思い思いに過ごすことができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ソファやダイニングテーブル、廊下にはベンチなどがあり、一人一人が思い思いに過ごせるような環境を整え支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族とも話し合いながら、使い慣れた物や好みのものを活かし、安心して生活できるものになるよう工夫している。	花が好きな利用者は摘んできた花や木の実で部屋を飾り、家族の写真を置いている利用者もいて、個々の生活の場としています。利用者に合わせてベッドの高さを調整し、安全にも配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレはわかるように印をつけ、夜間は電気を点けっぱなしにして廊下には足元灯を点けている。自分の部屋がわかる様にしたり、普段使用するものの場所を一定にし、混乱が無い様工夫している。		